



ダカールラリー2011

日野レンジャー ●日野チームスガワラ

市販車クラス2連覇&排気量10リットル未満クラス1・2位を獲得！
日野自動車はダカールラリー20回連続完走を達成！



REPORT ダカールラリー2011 1/1-1/16

過酷な南米大会で日野レンジャーが再び2冠達成。

参戦20年目の節目を市販車クラス連覇と10リットル未満クラスのワン・ツーフィニッシュで飾る。

日本のトラックメーカーとして唯一ダカールラリーへの挑戦を続ける日野自動車は初出場以来20年目(大会中止となった2008年を含まず)の節目となる2011年大会に向けて「日野チームスガワラ」を結成。2台の日野レンジャーでトラック部門の市販車クラスに参戦した。

日野レンジャーを駆るのは1号車菅原義正/杉浦博之組と2号車菅原照仁/鈴木誠一組。これを日野自動車ならびに全国版社から公募選抜された門馬孝之/山本昌良、橋場弘/山王隆史/末次健一のメカニック5名が現場でサポートする体制である。南米での開催3年目となった同大会は1月1日にアルゼンチンの首都ブエノスアイレスをスタート。アンデスを越えてチリを巡り、15日に再び同地にゴールする全行程約9500kmのループ状ルートで行われた。

排気量18リットルで950PSを發揮するロシアのカマズ以下改造クラスの大型車が大量出場して苦戦も予想される中、日野レンジャーは序盤から持ち前の機動力を發揮。相次ぐクラッシュや転倒事故をしり目に乗員の的確な判断のもとでじわじわと順位を浮上していった。標高3000m超の砂丘や気温45度を超える酷暑など中盤戦以降の難所ではエンジン出力や冷却性能の見直しといった改良点も奏功。排気量10リットル未満クラスのワン・ツー体制で前半戦を折り返し、12日には2号車が市販車部門の首位に躍進した。

そして最後まで安定したペースを保つと大型勢に分け入る総合9位と13位という高順位で2台揃ってフィニッシュ。トラック部門の完走率61%という例年以上に過酷な大会で市販車部門の2連覇と10リットル未満クラスのワン・ツーフィニッシュを達成し、ダカールラリーに於ける日野の歴史に輝かしい1ページを加えることとなった。



アタカマ砂漠を果敢に攻める1号車菅原義正組、2号車菅原照仁組とともに見事10リットル未満クラスのワン・ツーフィニッシュを達成した

Drivers Profile

菅原 義正
Yoshimasa
SUGAWARA
●1941年生まれ



多数の国内レース出場経験、サハラ砂漠横断などの冒険行を経て1983年(41歳)に初めてオートバイでダカールラリー(当時パリダカ)に参戦した。以来、四輪部門7回を経て1992年より日野レンジャーで参戦。トラック部門総合優勝6回、排気量10リットル未満クラス優勝7回の実績を持ち、2009年4月には「パリダカ世界最多連続出場26回」「パリダカ世界最多連続完走20回」の世界記録についてギネスブックの認定を受けた。日本レーシングマネージメント(株)取締役会長。

菅原 照仁
Teruhito
SUGAWARA
●1972年生まれ



1998年のダカールラリーにメカニックとして初参戦し、翌年からは父・義正のナビゲーターを担当。同時に国内オフロードレースやラリーレイド・モンゴルなどで経験を重ね、2003年のファラオラリーでは日野レンジャーを駆ってトラック部門総合優勝を飾った。ダカールラリー2005年大会からは親子二代の日野レンジャー2台体制で参戦し、2007年には排気量10リットル未満クラス優勝を獲得するなど成長著しい。日本レーシングマネージメント(株)代表取締役。



キャンプ地でサービスを受ける日野レンジャー。2台揃って大きなトラブルなしに走り切り、節目の大会での好結果に繋がった



5名の日野メカニックが作業に取り掛かる。集中力を絶やさず、連日の睡眠不足～徹夜作業も珍しい過酷な15日間をクルーとともに戦った



豪雨の中、激励に駆けつけた日野自動車近畿総協理(当時)、藤井恒彦専務(当時)とともにゴールのボディアムで表彰を受ける2号車のクルー

■ダカールラリー2011トラック部門最終結果表

| 総合順位 | 市販車クラス | 10リットル未満クラス | No. | ドライバー(国籍) | メーカー(国籍) | 累計タイム | トップとの差 |
|------|--------|-------------|-----|----------------------------|-------------|----------|----------|
| 1 | | | 500 | VLADIMIR CHAGIN (RUS) | KAMAZ (RUS) | 48:28:54 | 00:00:00 |
| 2 | | | 502 | FIRDAUS KABIROV (RUS) | KAMAZ (RUS) | 48:58:58 | 00:30:04 |
| 3 | | | 512 | EDUARD NIKOLAEV (RUS) | KAMAZ (RUS) | 51:49:11 | 03:20:17 |
| 4 | | | 518 | ILGIZAR MARDEEV (RUS) | KAMAZ (RUS) | 54:13:50 | 05:44:56 |
| 5 | | | 507 | FRANZ ECHTER (DEU) | MAN (DEU) | 54:14:31 | 05:45:37 |
| 6 | | | 506 | PEP VILA (ESP) | IVECO (ITA) | 55:44:55 | 07:16:01 |
| 7 | | | 503 | MARCHEL VAN VLIET (NLD) | MAN (DEU) | 59:10:57 | 10:42:03 |
| 8 | | | 537 | ARTUR ARDAVICHUS (KAZ) | KAMAZ (RUS) | 59:38:39 | 11:09:45 |
| 9 | 1 | 1 | 526 | TERUHIITO SUGAWARA (JPN) | HINO (JPN) | 62:50:22 | 14:21:28 |
| 10 | 2 | | 528 | MATHIAS BEHRINGER (DEU) | MAN (DEU) | 66:06:29 | 17:37:35 |
| 11 | | | 511 | MARTIN VAN DEN BRINK (NLD) | GINAF (NLD) | 67:40:58 | 19:12:04 |
| 12 | | | 524 | JOSEPH ADUA (FRA) | DAF (NLD) | 68:12:20 | 19:43:26 |
| 13 | 3 | 2 | 513 | YOSHIMASA SUGAWARA (JPN) | HINO (JPN) | 69:08:17 | 20:39:23 |

国名略号: DEU=ドイツ, ESP=スペイン, FRA=フランス, ITA=イタリア, JPN=日本, KAZ=カザフスタン, NLD=オランダ, RUS=ロシア

日野自動車ダカールラリー20年連続参戦を達成

挑戦を続ける日野スピリッツの象徴



日野自動車は1991年、日本のトラックメーカーとして初めて世界で最も過酷といわれるダカールラリーに参戦した。日野レンジャー4台で臨んだ初めてのラリーは文字通り手探り状態での

挑戦となったが乗員がタイヤ交換作業中に負傷した1台を除く3台が無事完走。貴重なデータを収集し翌年以降の確かな足がかりとなった。その後回を重ねるごとに総合力を高め、93年から

は1台体制での参加となる中94年～95年と連続総合2位入賞。続いてエンジン排気量10リットル未満車両のクラスが創設された96年には2台体制でクラス1・2位を獲得した。日野レンジャーは2002年まで同クラスの7連覇(03年は部門が設定されず)を飾るなどトップクラスのレーシングトラックに成長。とりわけ1997年大会では大型勢を向こうに総合優勝を果たすとともに出場した3台が1～3位独占という史上初の快挙で世界を驚かせた。

その後も復活した10リットル未満クラスでたびたびクラス優勝を得るなど活躍し、2010年～11年には排気量を問わない新区分(改造/市販車クラス)で市販車クラスの2連覇を達成して注目を集めた。継続的活動によって総合力を培ってきた日野チームは今では常連参加者の中でも実力派として一目おかれる存在に。2011年大会で20年間連続参戦となったダカールラリーは挑戦を続ける日野スピリッツの象徴である。



2002

総合3位で10リットル未満クラスの7連覇を果たした2002年大会でモーリタニア砂漠を駆ける日野レンジャー。98年から04年の間は菅原義正組1台体制での参戦だった



1997 この年、日野は日本車初のトラック部門総合優勝を果たし、参加した3台がダカールラリー史上初となる総合1・2・3位を獲得した。ダカール、ラック・ロゼのゴール地点にて



1991 国産トラックの初参戦となった91年大会には日野レンジャー4台体制で出場。苦勞の連続とあったが、3台が完走を果たす。写真は3、4号車がダカールのゴールに到着したところ

■日野のダカールラリー戦歴 1991～2011

| 大会年度 | 出場回数 | コース(国名) | 成績(カミオン部門総合/排気量10リットル未満クラス) | 総走行距離(km) | 出場車両 |
|------|------|---|---|-----------|---------|
| 2011 | 20 | ブエノスアイレス(ARG)～アムステルダム(NLD)～ブエノスアイレス(ARG) | 9,458 日野レンジャー1号車:13位(市販車クラス3位)/2位、2号車:9位(市販車クラス優勝)/優勝 | | |
| 2010 | 19 | ブエノスアイレス(ARG)～アントファガスタ(CHI)～ブエノスアイレス(ARG) | 9,026 日野レンジャー1号車:規定により失格、2号車:7位(市販車クラス優勝)/優勝 | | |
| 2009 | 18 | ブエノスアイレス(ARG)～パレルマ(チリ)～ブエノスアイレス(ARG) | 9,579 日野レンジャー14位・26位/2位・6位 | | |
| 2008 | — | 大会中止 | | | |
| 2007 | 17 | リスボン(POR)～ダカール(SEN) | 9位・13位/優勝(優勝車のみ表彰) | 7,915 | 日野レンジャー |
| 2006 | 16 | リスボン(POR)～ダカール(SEN) | 5位・7位/クラス別なし | 9,043 | 日野レンジャー |
| 2005 | 15 | バルセロナ(ESP)～ダカール(SEN) | 2位・6位/優勝(優勝車のみ表彰) | 8,956 | 日野レンジャー |
| 2004 | 14 | クレルモンフェラン(FRA)～ダカール(SEN) | 5位/クラス別なし | 10,411 | 日野レンジャー |
| 2003 | 13 | マルセイユ(FRA)～シャルムエルシェイク(EGY) | 5位/クラス別なし | 8,602 | 日野レンジャー |
| 2002 | 12 | アラス(FRA)～マドリッド(ESP)～ダカール(SEN) | 3位/優勝(クラス優勝7連覇) | 9,440 | 日野レンジャー |
| 2001 | 11 | パリ(FRA)～ダカール(SEN) | 2位/優勝 | 10,873 | 日野レンジャー |
| 2000 | 10 | パリ(FRA)～ダカール(SEN)～カイロ(EGY) | 5位/優勝 | 7,880 | 日野レンジャー |
| 1999 | 9 | グラナダ(ESP)～ダカール(SEN) | 4位/優勝 | 9,441 | 日野レンジャー |
| 1998 | 8 | パリ(FRA)～グラナダ(ESP)～ダカール(SEN) | 2位/優勝 | 10,570 | 日野レンジャー |
| 1997 | 7 | ダカール(SEN)～アガデス(NIG)～ダカール(SEN) | 優勝・2位・3位/優勝・2位・3位(カミオン部門史上初制覇) | 8,051 | 日野レンジャー |
| 1996 | 6 | グラナダ(ESP)～ダカール(SEN) | 6位・11位/優勝・2位 | 7,579 | 日野レンジャー |
| 1995 | 5 | グラナダ(ESP)～ダカール(SEN) | 2位/クラス別なし | 10,067 | 日野レンジャー |
| 1994 | 4 | パリ(FRA)～ダカール(SEN) | 2位/クラス別なし | 13,398 | 日野レンジャー |
| 1993 | 3 | パリ(FRA)～ダカール(SEN) | 6位/クラス別なし | 8,877 | 日野レンジャー |
| 1992 | 2 | パリ(FRA)～シルト(LAR)～ケープタウン(RSA) | 4位・5位・6位・10位/クラス別なし | 13,015 | 日野レンジャー |
| 1991 | 1 | パリ(FRA)～トリポリ(LAR)～ダカール(SEN) | 7位・10位・14位/クラス別なし(日本のトラックメーカーとして初参戦) | 9,186 | 日野レンジャー |

国名略号: ARG=アルゼンチン, CHI=チリ, EGY=エジプト, ESP=スペイン, FRA=フランス, LAR=リビア, NIG=ニジェール, POR=ポルトガル, RSA=南アフリカ, SEN=セネガル